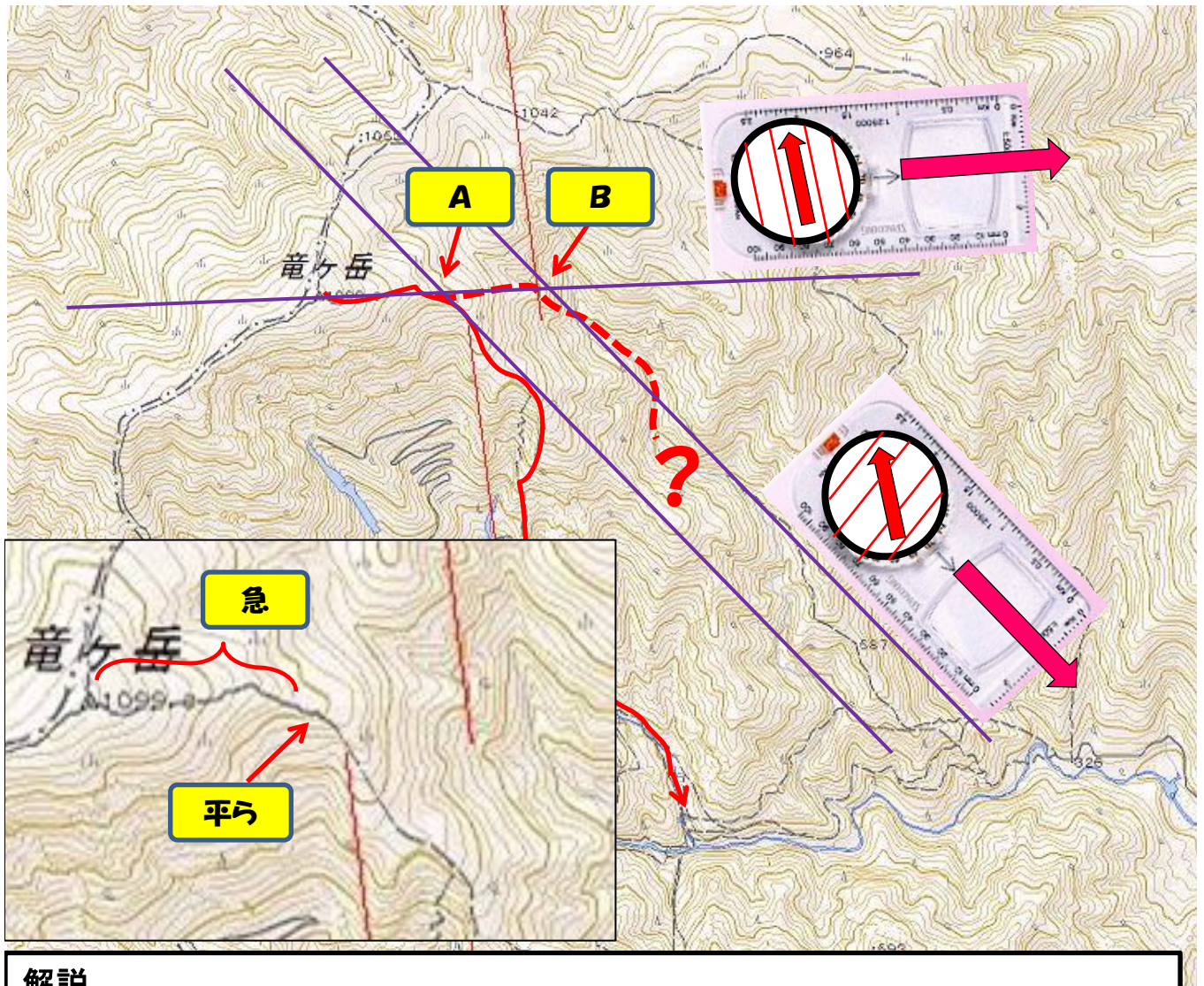


竜ヶ岳遭難(2014年9月)

竜ヶ岳から下山での道迷い事例。中道からヨコ谷への分岐より手前で蛇谷側に急な斜面を下った。蛇谷に下り、さらに谷を下ったところで、救助要請者は発見された。運よく金山尾根への取り付き踏み跡を発見し、金山尾根に出れた希運な例だった。



解説

竜ヶ岳からの下山時の予測が、「尾根が途中で右に曲がる」という予測を立てたとしよう。すると、AとBの尾根分岐を間違ってしまう可能性がある。予測は、どう立てたらよいのだろうか？拡大図を見てほしい。

①コンパスで方向を確認する。②急な下りを〇〇m進むと平らが出てくる。③平らまで標高差100m。

という予測を立てたい。しかし、傾斜転換点(急な下りから平らになる)の特徴を見つけられる技術が必要となる。この等高線の間隔の違いを見つけられるようになると、読図の技術が急激にアップする。このとき必要なものは、拡大した地図が役に立つ。縮尺は考えず、とにかく大きな拡大した地図を持参しよう。すると、今まで特徴物でなかった地形が特徴物に思えてくるから不思議だ。一度、実践してほしい。

今回の遭難は、急斜面を沢に出るまでに「道に迷った」とうすうす感じながら進んでいたと思われる。すでに、遭難者の自分の中にもう一人の「ひょっとして、なんとかなる」という言葉が行動を制御していたに違いない。後から検証すると「なぜあんな行動をとったのか？」遭難者自身も分からないことが多い。それが、道迷いの大きな要因となっている。